

公開資料

平成31年度

# 全国学力・学習状況調査結果

平成31年4月18日実施



我孫子市立並木小学校

## ○小学校国語＜H31 並木小学校＞

○本校の平均正答率が県63%，全国63.8%を上回っている。

すべての領域についてよく理解できている児童が多い。国語への関心が高く、漢字を文の中で正しく使ったり，目的や意図に応じて自分の考えを書いたりすることができる児童が多い。また，話し手の意図を捉えながら聞いたり，質問したりすることができる児童も多い。

## ○課題等

### 話すこと・聞くこと

◇話し手の意図を捉えながら聞き，自分の考えをまとめることができる児童が多い。

◇話の展開に沿って確認するための質問をしたり，目的や場面に応じて質問を工夫したりすることができる児童が多い。

### 書くこと

◇目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書くことができる児童が多い。

◇情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることができる児童が多い。

◆図表やグラフなどの資料をどのような目的で用いているかを捉えることにやや課題がある。

### 読むこと

◇目的に応じて文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながらかくことができる児童が多い。

◇目的に応じて，本や文章全体を概観して効果的に読むことができる児童が多い。

### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇学年別配当表に示されている漢字を正しく読んだり，書いたりすることができる児童が多い。

◆文と文との意味のつながりを考えながら，接続語を使って内容を分けて書くことにやや課題がある。

◆ことわざの意味を理解して，自分の表現に用いることに課題がある。

※問題形式が記述式の問題では，無解答率の割合が高く，選択式の問題では無解答が少なかった。

◇…全国平均と比較してよくできている点 ◆…課題のある点

## ○小学校算数＜H31 並木小学校＞

○本校の平均正答率が県66%，全国66.6%を上回っている。

すべての領域についてよく理解できている児童が多い。「数と計算」の領域は、「2倍」や「 $20 \times 10$ 」など、数値や式を答える問題はよくできるが、記述して説明することに課題がある。「量と測定」の領域では、図形の面積を求めることはできるが、求め方の説明を記述することに課題がある。

## ○課題等

### 数と計算

◇加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる児童が多い。

◇減法や除法の計算について、成り立つ性質を基にして計算することができる児童が多い。

◆示された計算の仕方について、成り立つ性質を記述することに課題がある。

### 量と測定

◇単位量あたりの大きさを基に、かかる時間を求めることができる児童が多い。

◆示された式が、図形の面積をどのように求めているものか、求め方の説明を記述することに課題がある。

◆資料の特徴や傾向を関連づけて、わかることを選び、選んだわけを記述することに課題がある。

### 図形

◇台形の性質や構成要素を理解している児童が多い。

◇2つの合同な図形をずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を求めることのできる児童が多い。

### 数量関係

◇棒グラフから、特徴や傾向を読み取ることができる児童が多い。

◇グラフや資料などの示された情報を解釈し、条件に合う数値を求めることのできる児童が多い。

◇調べる必要がある事柄を選び、伴って変わる2つの数量を見いだすことのできる児童が多い。

※問題形式が記述式の問題では、無解答率の割合が高く、選択式の問題では無解答が少なかった。

◇…全国平均と比較してよくできている点 ◆…課題のある点

# 児童質問紙から見えてくる並木っ子児童像

## 基本的な生活習慣

- 朝食を毎日食べているかの質問に対し、98%の児童が「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答し、全国平均を約5ポイント上回る割合であった。
- 家の人と学校での出来事について話をするかの質問に「話をする」「どちらかといえばする」と回答した児童の割合は約87%で、全国平均を約10ポイント上回っている。

朝食を摂ることや一定の就寝時刻にするなど、基本的な生活習慣を身に付けており、家庭で学校の出来事について話をする児童の割合は高い。

## 家庭学習、読書の習慣（学習時間等）

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしているかの質問に「勉強をする」「どちらかといえばする」と回答した児童は、約75%で全国平均を約5ポイント上回っている。
- 学校の授業以外に1日2時間以上学習していると回答した児童の割合が約33%で全国平均を約4ポイント上回っている。一方で30分より少ないと回答した児童の割合は、約15%で、全国平均を約5ポイント上回っている。
- 読書は好きかの質問に「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童は、全国平均とほぼ同じ割合であった。
- 学校が休みの日に本を読んだり、借りたりするために図書館へ行くかなど、読書に関する質問に「読書する」「どちらかといえばする」と回答した児童の割合は、全国平均を約5ポイント下回っている。

本校の児童の家庭学習の状況を分析すると、自分で計画を立てて学習する児童が多い。しかし、学習時間を見ると、比較的長時間学習している児童とそうでない児童に大きく分かれている。また、読書は好きだが、授業時間以外に読書したり、図書室や図書館に行ったりする児童が少ない傾向がある。読書は好むが、習慣化されていないことがわかる。

## 主体的・対話的で深い学びの視点による学習の取組状況

- 5年生までの授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたかの質問に対し、「取り組んでいた」「どちらかといえば取り組んでいた」と回答した児童の割合は、約75%で全国平均を約2ポイント下回っている。
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたかの質問に対し、「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と回答した児童の割合が約54%で全国平均を約8ポイント下回っている。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うかの質問に対し、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は約62%で全国平均を約10ポイント下回っている。

自ら進んで学習できるような手立てを講じ、自分の考えを伝えたり、友達と話し合ったりする活動を取り入れた授業に取り組んできた。しかし、自分の考えを工夫して発表したり、対話から自分の考えを深めたり、広げたりすることには依然として課題がある。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらなる工夫をしていく必要がある。

### 規範意識、挑戦心、自己有用感等

- **学校のきまりを守っているか**の質問に対し、「守っている」「どちらかといえば守っている」と回答した児童の割合は約97%で、全国平均よりも約5ポイント上回った。
- **人が困っているときは進んで助けているか**の質問に対し、「助けている」「どちらかといえば助けている」と回答した児童は約95%で、全国平均よりも約10ポイント上回る割合であった。
- **人の役に立つ人間になりたいか**の質問に対し、「なりたい」「どちらかといえばなりたい」と回答した児童の割合は約98%で全国平均を約3ポイント上回っている。
- **ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか**の質問に対し、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童は約95%で全国平均とほぼ同じ割合であった。
- **難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しているか**の質問に対し、「挑戦している」「どちらかといえば挑戦している」と回答した児童の割合は、約75%で全国平均より約5ポイント下回った。
- **自分には、よいところがあると思うか**の質問に対し、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は約75%で全国平均よりも約5ポイント下回っている。

規範意識が高く、将来への夢や目標を持っている児童が多い。しかし、自信がなく、困難にチャレンジする気持ちを持っている児童が少ない。児童一人ひとりのよさを認め、そのことを児童が感じられるように働きかけ、自信を持たせ、粘り強く取り組む力を高めていく必要がある。

### 算数の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

- **算数の勉強は好きか**の質問に対して、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は約70%で全国平均とほぼ同じである。
- **算数の授業で新しい問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか**の質問に対して、「考える」「どちらかといえば考える」と回答した児童の割合は約75%で全国平均を約7ポイント下回っている。
- **算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるか**の質問に対して、「考える」「どちらかといえば考える」と回答した児童の割合は約80%で全国平均を約2ポイント下回っている。

「生き生きと主体的に学ぶ児童の育成」を目指して算数の研修を行ってきた成果が表れ、算数に対する学習意欲が向上した。新しい課題に対して解いてみたいと思い、あきらめずに色々な方法を考える児童の割合は、全国平均を下回っているものの、前回よりも向上している。学習したことを実生活と結びつけて考えさせたり、生かしたりすることを通して、深い学びにつなげるよう、さらに具体的な手立てを考えて、授業改善に取り組んでいく必要がある。